

文字通りだった「美」の山 登山

西 正子

●2024年4月13日(土) 晴れ

●メンバー

島崎 横堀 松田 嶋田 白井 竹内 西A
西M

●コースタイム

親鼻駅(9:50)→みはらし園地(11:20)→美の山(12:00)→和銅精錬所跡(13:20)→聖神社(13:45)→和銅黒谷駅(14:10)

美の山は秩父市郊外、標高 581.5m の手軽な山である。しかし山頂まで車で行けるためか、ガイドブックに見ることが少なく、なんとなく後回しになっていた。しかしネットを閲覧すると、さすが「美」の山。サクラ、ツツジ、アジサイ、ヤマユリなどが季節ごとににぎわいを見せる映像に驚いた。そんなこんなで、今回はサクラ見物、計 8 名のメンバーで訪れることにした。

★昭和のガイドでは「蓑山」となっていますが、最近では字面とイメージ重視で「美の山」と表されることがほとんどです。

秩父鉄道・親鼻駅から 15 分ほど歩くと登山口になる。道標はわかりやすくスムーズだ。

登山道は「関東ふれあいの道」に指定され、ゆるやかな登りがつづいている。駅にはかなりのハイカーがいたが、山に入れば三々五々。煩わされることはない。また自動車道は 1 度だけ登山道と交差するが、基本はまったく違う場所を走っているようで、山は静寂そのものだった。

木々は芽吹きをむかえ、青い空と萌黄色の対比が春らしい。標高を上げると、ヤマブキ、スミレ、マムシグサ、ヒトリシズカ、エビネなど百花繚乱だ。めいめい写真を撮ったり、匂いを確かめたりした。

1 時間ほど登ると「みはらし園地」となり、ここで大休止とした。見上げると山頂付近の斜面にたくさんのサクラが咲いている。さすが「関東の

吉野山」だ。

美の山は言ってみれば低山だ。だからこそ、ソメイヨシノ、ヤエザクラ、ヤマザクラなど、平地と山地のサクラがまじりあい、微妙な色の濃淡が楽しめるのだろう。

十分な休憩後、みはらし園地から山頂までは、ほんの 30 分。舗装道をゆるやかに登る。

山頂は広々とした台地で、自動車登山組も混じって、たくさんの方がいた。樹下の花見グループ、ボール遊びの家族連れ。思い思いに楽しんでいる。

周囲の眺めもすばらしい。やや霞がかった空の下、両神山、二子山、武甲山。秩父の盟主が立派だ。秩父市内の家々もたくさん見えた。

下山道、和銅黒谷駅までは、登りにくらべてやや急だったが、それでも危険な所は無く、1 時間ほどで麓の集落に到着した。

途中、「和銅採掘露天掘跡」と「聖神社」へ寄り道した。

露天掘跡は、日本初の流通貨幣「和同開珎」の材料銅を採取した場所で、貨幣を模した記念碑が建てられていた。よく見ると、周囲には苔むした石垣と平たく均された土地があり、昔の生活を偲ぶことができた。

聖神社は、別名「銭神様」とよばれている。金運のパワースポットだけあって、小さい駐車場にたくさんの車が列を成し、石段も人がひしめいている。「この不況下、さもあらん」と思ったところが、これはとんだ勘違いだった。

ちょうど春祭り「黒谷の獅子舞」が始まるところで、偶然とはいえ、地元の三姉妹が黒獅子の装束で 10 分ほどの舞いを披露する場面に出会うことができた。

この他、帰りの秩父線では S L 蒸気機関車とすれ違ったりして、今回の山行はお目当てのサクラ以外にも、さまざまな形の「春」を体験し、すばらしい一日となった。